

2026 年 8 月 14 日・15 日

日本語教育学国際シンポジウム／日本語教師研修の報告

2026 年 8 月 14 日にベトナムのフエ外国語大学において、昭和女子大学国際文化研究所とフエ大学外国語大学日本語日本文化学部の日本語教育学国際シンポジウムが開催されました。この会に協働実践研究会（日本／ベトナムフエ支部）は後援として関わりました。

1 日目（8 月 14 日）「日越学術・教育交流の歴史と現在」のプログラムが実施されました。冒頭でフエ外国語大学日本語日本文化学部副学部長のニャット先生の開会宣言、次に昭和女子大学人間文化学部・大学院文学研究科教授・国際文化研究所所員／協働実践研究会委員の近藤彩氏から開催の趣旨説明がありました。その後、フエ外国語大学のニー先生のご講演、近藤氏の講演が続きました。午後は池田玲子（協働実践研究会共同代表・昭和女子大学大学院文学研究科非常勤講師）の講演につづき、フエ外国語大学の日本語教師 3 名（バン先生、ラン先生、ハー先生）の実践報告がありました。これらについて質疑応答、意見交換会、そして近藤・池田による講評を行いました。



日本語教育学国際シンポジウム 1 日目「日越学術・教育交流の歴史と現在」

全体集合写真



フエ外国語大学日本語日本文化学部 副学部長 ニャット先生（右）

司会のヴィー先生（左）



昭和女子大学人間文化学部・大学院文学研究科教授・国際文化研究所所員
協働実践研究会委員 近藤彩氏



2 日目（8 月 15 日）は、フエ外国語大学教員室において前日の発表に続きハイン先生が実践報告をしました。これについて質疑応答、講評の後、日本語教育の「実践研究・質的分析」について講義と WS を行いました。

近藤・池田を講師とする「実践研究「質的研究」」をテーマとした日本語教師研修を行いました。講義と WS で 3 時間の研修にフエ外国語大学の教師たちは非常に熱心に参加してくださいました。



日本の日本語教育界では、近年、社会の変化に応じて日本語教育や日本語教師の位置づけが大きく変わりつつあります。とくに登録日本語教員制度が話題として注目されています。一方、ベトナムでは大学で働く日本語教師たちの資格として「学位取得」条件が厳しくなっているそうです。教師が日々の教育実践を改善していこうと思うのは、実はずどの教師も同じだと思います。しかし、実践環境や学習者状況、教育をとりまく社会制度は、国や地域、学校によってもそれぞれ違います。だからこそ教師一人ひとりが自分自身の実践環境をよく把握し、観察し、深く分析し、改善していく態度と力が必要となります。

今回の学術交流会、教師研修では、教師が自らの実践を改善していくための「実践研究」「質的研究」のあり方について学び合いました。ベトナムの日本語人気は低下傾向にあるのは残念ではありますが、それでも海外では多くの日本語学習者と熱心な日本語教師たちが日本語教育の現場実践を進めてくれています。海外の日本語教育が今後も持続的発展的であってほしいという思いで今回のシンポジウムと研究会を終えました。フエの日本語教育からベトナムの各地域への発信が今後期待されるところです。ベトナムの日本語教師の方々が、協働的な学び合いを通じて日本語教育を支えてほしいと思います。

文責 池田玲子